

黄色のカーテン

今年も黄砂のシーズンとなりました。黄砂は今更説明するまでもなく、洗濯物に付着したり、目に入ったりするものという認識が一般的だと思いますが、それよりも存外奥深いものだと言えそうです。そもそも黄砂は中国やモンゴルのタクラマカン砂漠やゴビ砂漠、黄砂高原といった東アジア内陸部の乾燥地の砂塵が偏西風によって上空に巻き上げられ、広範囲に飛散する砂のことです。主にアジア圏で発生することからアジアダストとも呼ばれています。

黄砂はアジアだけでなく全地球規模で影響を与えています。太平洋を横断してハワイやアメリカ大陸まで飛来したり、大西洋を越えて地球を何周も回ったりすることもあります。黄砂の巻き上げられた粒子の内最も細かいものは地上に落ちる事なく長時間大気中に浮遊します。これらの微粒子は雨粒の核となるため、黄砂の発生は雨量の増減など全世界のお天気にも関与していると考えられます。

一般的に大気中に浮遊する微粒子はエアロゾルと呼ばれていますが黄砂もその一部を構成しています。エアロゾルには太陽光を反射して大気を冷やす効果があり日傘効果と呼ばれています。海洋に落下した黄砂は鉄分などのミネラルをプランクトンに供給します。報告には黄砂の多い年に南太平洋ペルー沖で海水面の温度が上昇するエルニーニョ現象が多く発生するとのこと。天候リスクは年々、夏冬関係なく拡大している傾向にあると思います。

鎌野



選挙演説

安倍元総理の銃撃事件に触発されたのか先日、今度は現役の岸田総理を狙った、手製の爆弾投げ込み事件が起きた。安倍さんの事件後には今回の様な選挙応援演説中の警備は、以前より厳重になったはずなのに、岸田総理の足元近くにまで今回の爆弾は到達している。爆弾が投げ込まれた時点で、警備は失敗だったと専門家も言っているが、あの時に瞬時に爆発していれば岸田総理も、もしかしたらお亡くなりになる様な可能性もあった。ああいう形式の演説会での警護は、とても難しいとは思いますが、そもそも、今の様な選挙中の応援演説が本当に必要なのか？ここまで要人の命を危険にさらしてもやる必要があるのか、見直すべき時期に来ていると思う。

それはそれとして、今回事件を起こした犯人は、選挙制度に不満があり、それで事件を起こした可能性が高いが、この犯人の考えはとても恐ろしいと思う。確かに選挙制度に問題があるのかもしれないが、自分の思う様にならないことがあったら、爆弾や拳銃を使い要人を殺害して話を聞いてもらうというやり方は、常軌を逸しているというよりも危険思想である。皆がそんなことをやり始めたら、地獄の様な世界になる。見せしめでもいいから、重い刑に処してもらいたい。世の中に不満を持つ人は多いと思うし、私だって不満は色々ある。だがしかし、それは自分で何とかしなければならないものだと思う。不満を世の中のせいにならず、まずは生きていること、世の中に感謝することから始めて欲しいものだ。

英樹



配り

第 287 便

勝亦製材駿河鉄骨株

住まい塾御殿場教室

TEL (0550) 87-0048

FAX (0550) 87-1237

〒412-0035 御殿場市中山518番地

水張った田んぼに映る大空にミサイルが降るウクライナ思う

ねがみともみ



寒椿まつさらな空に凜と咲き明るく生きよと声かけてくる

林 なをみ



憎まれっ子世に巾かると聞きしかど独裁者尚汚名上塗りす

勝亦 りつ子



電動工具???

土木や建築、農業などの仕事では電気の通っていない場所で作業をすることがよくあります。そういった場所では人力の道具で作業をするかエンジン動力を用いて作業を行います。人力ではとても大変な作業の場合、一昔前なら主にエンジン式の発電機を用いて電力を賄い、そこにケーブル付の電動工具をつなげて使用していました。しかしその発電機そのものが大きく重く、現場に持ち出すのも一苦労です。そこで近年では充電式の電池を備えた電動工具が主流となってきています。電池の性能は日進月歩で7.2V程度だった十数年前のバッテリーが、今や40Vまで使えるようになってきました。小型、ハイパワーな電池の登場で作業の効率は飛躍的にあがりました。そうなるに工具だけにその電池を使うのではなくいろいろな分野へと拡がっていきます。

電動工具で有名な Makita ではコーヒーメーカーや扇風機、テレビ、保冷庫など、屋外作業の為だけではなく、防災や野外活動を快適にするための様々な道具が出てきました。

そして今年、なんと充電電池を使った電子レンジが登場したのです。これには目を疑いました。確かに冬の屋外作業での昼休み、あるいは自然災害により電力供給が絶たれた時でもホカホカの温かい食事がとれたなら、どれほど有難いか、心のゆとりが持てる事か、想像に難しくありませんよね。

「でもお高いんでしょ〜？」とお思いの皆さん、はい、確かにまだまだ簡単に買える値段では無いようです。でも近い将来さらに電池の性能が良くなり、一般に普及すればお値段も下がってくるのでしょよね。昨今のキャンプブームでは充電電池（ポータブル電源）を使うことも一般化してきました。冬のテントで電気毛布、なんてこともよく聞きます。

技術の進歩が人の生活様式を変えていくことを実感しています。



柳田 敏和

昭和 98 年



更新書類に昭和〇〇年〜という文言があり、その当時は西暦では記載することもなかったので昭和〇〇年は西暦何年だと検索する。ん?と思い。では、現在 2023 年、元号：令和 5 年は昭和何年?となり調べてみたところ『昭和 98 年』となった。2 年後には昭和 100 年。100 年なんてあつというまだ。

昭和は戦争のあった時代であり、世界で唯一核兵器が落とされた時代でもある。歳を重ねるはずだ。何度もテレビで放送される、スタジオジブリ作品『天空の城ラピュタ』1986 年公開、37 年前です。一度は見た方もいるかと思いますが、子供の頃または若かった頃見た時の感じ方と、歳を重ねて見る感じ方と、見方、作品に対する捉え方が違うと感じるのは、私の個性だろうか?いずれにしても普遍的、時代や場所、人種に関係なく、どのような受け手にも通用する作品だと思う。普遍的といえば『ビートルズ』も当てはまると思う。こんなことを考えるのはやはり歳を重ねたからなんだろうなあ。これも戦争もなく、生かされているおかげだと感謝している、つもり・・・。部屋の本に挟まれた紙に若い頃書いた文字があった。

“毎日と同じようで違うんだね。ちょっと目を離しているうちにみんな変わっている。もっと一日一日大事にしていけないといかん、目～離れたらいかん。どんなにつまらん時でも、もうその時は戻ってこない。”
漫画のセリフ。漫画の一コマが脳裏にうかぶ。おそらく凹んでいた時に書いたものだろう。この台詞もその当時と今とは感じ方捉え方が違う。切実さがでてくる。いやいや勉強になります。100 年なんてあつという間。どんなにつまらない時でもすごく楽しかった時でも嫌なことが続いても、もう戻ってこない。自分のご機嫌は自分でとって前を向いて行こう!と思った、検索事項『昭和 98 年』でした。

ねがみ



水資源

空気から作った水で淹れる国内初のコーヒー店が渋谷にオープンするらしい。空気中の水分を吸い取りフィルターなどで濾過したあとにミネラルが加えられる。この空気製水器は電気さえあれば飲水ができるため災害時にも活用できるとニュースに取り上げられていた。電気は 10 日程で復旧されるがガスや水道は 1 ヶ月以上かかるらしい。流通も止まるのであつという間にお店も品切れです。災害時には心強い装置かもしれませんが。デメリットは一般的なウォーターサーバーと比べたら価格帯が高め。維持費として電気代やフィルター費用が発生します。コンプレッサー式は重量が 40kg を超えるので、設置場所を変更するのが大変かもしれません。床上浸水などの被害があれば機能しなくなる可能性があります。

地球上で水道水がそのまま飲める国は 10 カ国しかないとされています。日本では当たり前前に美味しく安全な水が飲めるが、世界では当たり前のことではないようです。ありがたいことです。水も資源です。大切に使っていきたいものです。

祥子